

## おまけのおまけシリーズ

### 「ガーディアンの気持ち」ならぬ「私の独り旅日記」→第10回

今回は2023年6月27日～29日の2泊3日のJR東日本の格安切符（5日間新幹線&在来線乗り放題15,279円）での秘湯の温泉をめぐる独り旅でした。今回も魅力いっぱいの楽しい旅でした。

- 1) 今回は山形県米沢市から最上川の源流に行く旅です。従って今までのように青森や北海道に行く時の新幹線「はやぶさ」でなく、山形行き新幹線「つばさ号」です。もしかすると山形行きの「つばさ号」は初めてかもしれません。東京発8時56分なのでいつもより少し遅い出発なので、東京駅でまずコーヒーを買って出発少し前まで待合室でコーヒーを飲みながら「マン・ウォッチング」をしました。何故かと申しますと、私は2年前から一人旅をするようになったからです。まずサラリーマンの8割位はスマホやタブレットで仕事なのか？ゲームなのか分かりませんが、おにぎりやサンドウィッチを食べながらやっています。そう言えば最近新聞や週刊誌を読んでいる人が少ないように思えました。割とお年寄りの女性グループはそれぞれ自分の好きな飲み物を飲みながらこれからの旅行のお話か？大きな声でぺちゃくちゃ。何故か、おじさんたちの旅行グループは少ないようです。若いカップルもスマホ片手に、何やらヒソヒソ話。何を言っているのか全く分かりませんが「マン・ウォッチング」は想像するだけで結構楽しいです。

出発の10分前にホームに向かいます。慣れた旅なのと、もう一つ新幹線は出発の5分前位に列車のドアが開き、5分後の定時に静かに出発します。日本の汽車、電車の時間の正確さは世界に有名です。

新幹線に乗ると、いつものように何組かのlineグループに安否確認を兼ねてメールしていると、なんと2時間ちょっとで米沢に着いてしまいました。米沢駅に着くと小雨模様。そうか今は梅雨の最中かと。宿からの迎いのマイクロバスは2時の約束なので、駅の観光所に行って、どこか観光名所はないか？と聞くと、駅前から市内バスで15分程で上杉謙信公園があると言われて、早速行くことにしました。そうか、ここ米沢は謙信の町でした。上杉鷹山は17歳で上杉家9代の当主になった人物だが、歴史に疎い私でも「為せば成る、為さねばならぬ何事も…」は知っていました。米沢も素晴らしい人物の生まれた所と感心しきりでした。

2時丁度に送迎マイクロバスが来てくれて、乗ったのは私を含めて4人。運転手は道すがら「今から50分程で、海拔1400メートル位登って、そこからは800メートル、高低差300メートルほどを歩いて頂きます。」とこともなげに説明します。私は思わず「えっ!？」と叫んでいました。約50分で海拔1400メートルまでの路は、テレビで見る「こんな所に1軒家」どころではなく、断崖絶壁で何回も切り返しがあり、いくつもの「落石注意」の標識とマイクロバスは縦揺れと横揺れを繰り返し、頭を車の天井にぶつけながら、進みました。もっとびっくりしたのは、途中で急に車を止めると、太い木が地上1メートルほどの所で木の皮がめくれている、運転手はこともなげに「昨日まではこれはなかった、これは熊がかじった跡です」と。するとまた誰かが「えっ!まさか?」と。スリルの連続でした。

皆さんもドライブで山道の「落石注意」という標識を見るとと思いますが、どのように注意をするのですか?私はいつも不思議に思います。

800メートルの距離で300メートル下る。誰か平均斜度計算してくれませんか?

そうこうしている内に問題の1400メートル地点になり、「荷物はそのままでもいいから、ここからはマイクロバスは行けませんから、皆さんは歩いて宿まで行って頂きます」と。4人は歩き始めます。何故か1番高齢な私が宿の手前のつり橋の所まで一番早く到着したのです。他の3人(一組の50代位のご夫婦?と矢張り50代位の一人の男性)の一人が、「どうしてそんなに早いのですか?」と聞いてきたので「昔、山登りをしていたのと、今でも地域で夜、防犯パトロールをやっていますから」と。(しかし、いつも一緒に巡回している、3丁目のSさんは知っています。3丁目で1番急な坂の50、60メートルを今や、やっとの思いで登っていることを)自分でもわかりませんが、何故か頑張ってしまうのです。

宿の手前50メートル程のつり橋を揺れながら歩いて、やっとな午後3時半頃、宿の「滝見屋」に到着。「へっへっ!やれやれ!」でした。これぞ「秘境の宿!万歳」

苦労して来た甲斐があって、宿も露天風呂も最高に良かった。露天風呂のすぐ外を清流が流れていて、岩魚の釣り人が2人。私が「釣れていますか?」と聞くと、「今日はダメだね」と、すぐそばから返事が返ってきた。

露天風呂は「カメラ禁止」も「写真撮影禁止」の看板もなく、大きな声では言えませんが、宿の方に裸の写真を撮ってもらいました。

宿から見える1キロほど先の小さな滝付近が最上川の源流とか。ここがあの「五月雨を集めて早し最上川」の始めだと思うと、小さな感動を覚えます。

滝まで急な登りで40分位と聞きましたが、万が一を考えて止めました。

本日の宿泊者は釣り客 2 組を入れても 7~8 人（夏になると宿は満員になるそうです）食堂ではあまり飲めないビールなどを飲みながら美味しい山菜料理やイワナの塩焼きなどを堪能しました。

驚いたことがまだあり、宿の若女将（安部里美さん）は飛び切りの美人で地元の雑誌「よねざわ」の表紙を飾るような美人でした。一緒に写真を撮りたかったが、何故か言い出せなくて、あとで line グループの人に言ったら「小野さんらしくない、もう 1 度行って写真を撮ってもらいなさい。」と言われましたが、今や遅しです。

この若女将の素晴らしいのは数年前に台風の被害に遭い、宿が流されて、宿を閉めようとしたのだが、再建を熱心に勧める人達がいって、再建したという。このことがテレビで放映されて、そんな美人がいる宿を訪ねる人も多いという。そういえば今回、一緒になった 50 代のご夫婦もそんな一組でした。私とえば、ただ「日本の秘湯」という本を見て来たただけでしたが。

2) 次の日（28 日）は米沢から奥羽本線で湯沢に出ます。

そうそう忘れていました。28 日は「滝見屋」から米沢へ出るのです。生憎朝から大雨でした。それでも私は 800 メートルの登りを覚悟して、雨具の支度していると宿のおかみさん（若女将、里見さんの母親）が軽自動車ですべて用事があるから乗せて行くと言う。なんという幸運！と思うと同時に次に、このおかみさん（失礼ながら 70 歳は超えている？）と想像すると複雑な気持ちになりましたが、「まあ、いいか！」ここは運を天に任せるとはこのことか、と心に決め、この雨と急坂の登りを事を考えると、お言葉に甘えました。ところがあに図らんや、このおばあさん（失礼！）慣れた運転さばきで軽自動車でも何回も切り返しながら米沢駅まで送って頂きました。ラッキー以外何物でもありませんでした。何度もお礼を言いました。

28 日は湯沢からバスで 1 時間半程の奥にある阿部旅館でここも秘湯の湯の宿でしたが、どうしても昨日の宿「滝見屋」と比べてしまうので書くのを省略します。

29 日の朝は阿部旅館からまたバスで湯沢駅に出て、駅の観光案内所で湯沢の町の名所に行きたくて聞いてみると、歩いて行ける米沢城址あるからそこを勧められて行きました。しかし城址というだけあって、昔の城跡だったので、早々に湯沢の町に戻り、これも聞いていた湯沢はあの「稲庭うどん」の発祥地で、うまいお店も紹介して頂き、美味しい「稲庭うどん」を頂きました。これは本当に美味しかった。

また、余談ですが、湯沢というと皆さんも新潟の湯沢を思い出しますが、湯沢は

山形の方が古く、新潟の湯沢は正式には「越後湯沢」となったとのこと。

湯沢からは再び奥羽本線で新庄に出て、新幹線で上野→大磯へと帰ってきました。今回の2か所の秘湯の湯の宿を加えると9か所となりあと1か所でめでたく10軒になるから記念の宿は良い「秘湯の湯の宿」にしようと考えながら大磯の誰もいない自宅に戻りました。

(by テツ&ゴン)